

新しくなった図書館に、あなたは何回足を運びましたか？

図書館には体育、教育関係の専門書から雑誌までたくさんの本があります。その中でも今回は就職や教採などの対策にとっても役立つコーナーを紹介したいと思います。

2階左端の参考書コーナーには就職問題集・小中高教科書指導書、また教員採用試験問題集など、勉強に必要な参考書が充実しています。(一部貸し出し不可)。他にも論文対策の本、小中高の実際の教科書も置かれていて実習前に行くこともお勧めしたいです。

館内はとても静かで6人掛けの机、個別の勉強スペースも設けられています。夢を実現するため、大学生活を充実するため、おいに活用していきませんか？

(学部3年・西川知奈)



女子体育大生のみなさんにこそ、読んでほしい本です。

本学教員著書

ブルマーの歴史は女性の歴史、女子体育の歴史なのです。5人の研究者が、アメリカでブルマー女史が女性解放のためにブルマーをはいてから日本で消滅するまでを論じました。

私(掛水)の担当は第4章「ブルマーの戦後史—ちようちんブルマーからぴったりブルマーへ」です。戦後45年の間に、丈の長いひだのあるちようちんブルマーが次第に短いパンティのようなぴ

たりブルマーになるまでの過程を研究しました。文中には、昨年度大学2年生月曜日体育社会学受講生のお母さん方193人に書いて頂いた「ブルマーの思い出」も引用し、一覧表にもしてあります。ご協力いただいた学生さんは是非読んで下さい。

女性解放運動から生まれ、女性が解放されるとともに短くなったブルマーは男性の欲望のまなざしにさらされ消滅したのです。(体育史・掛水通子)



©ブルマーの社会史—女子体育へのまなざし(高橋一郎、萩原美代子、谷口雅子、掛水通子、角田聡美、青弓社、2005年)

映像を手元にたぐり寄せろ！

◎夜回り先生 水谷修のメッセージ いいもんだよ、生きるって(DVD)

「夜回り先生」こと水谷修先生。自ら深夜パトロールを行い、青少年の非行・薬物問題などの更正に力を尽くしてきた彼の半生のドキュメンタリー。水谷先生の著書を読んだことがある人もない人も、是非一度このDVDを見てください。講演会での彼の話を一言も漏らさず聴いて、彼の情熱を受けとめてください。(図書館アルバイト・斉藤美和)



◎第41回ダンス研究発表会(DVD)

東女大第41回ダンス研究発表会(今年9月)を図書館で視聴できます。ワルツにのったオープニングから始まり、1部は個性ある小作品3作品、2部では全日本高校・大学ダンスフェスティバルコンクール受賞作品や参加作品そして卒業生作品、3部では大作「Be there ~the passage of time~ I'll be there~」過去・現在・未来と流れる時の中、自分の確かな居場所を模索しながら進んでいく姿をダンスで表現しています。(ダンス・高橋繁美)



読書の習慣づけから始めよう！

学生にとって大切なことの一つに読書があります。読書に大切なことは習慣です。習慣が実によく多くのことを為すのです。読書の習慣は早くから養うことが重要です。学生の時代に読書の習慣を作らなかった者は恐らく生涯読書の面白さを理解しないため人生を終わることになるでしょう。読書の時間がないというのは読書をしたための口実に過ぎません。まして学生は世の中に出た者よりも遙かに多くの閑暇をもっている筈ですので、学生時代に読書の習慣を身につけてください。いやいやながら始めて、やがて面白くなってやめられなくなる場合が多いです。先ず読書することから読書に適した気分が出てくるものです。こうしたことから、普段から時間をみつけて図書館を大いに利用してください。(図書館事務長・高橋烈)

インフォメーション

開館時間を延長しました！

- ①通常時—春・夏・冬季休業期間等を除く期間
月～金曜 9:00～18:00 土曜 9:00～13:00
- ②特別時—前・後期試験の開始1週間前～試験終了前日
卒業研究提出の開始1週間前～提出期限前日
月～金曜 9:00～19:00 土曜 9:00～15:00

「LiVRE (リーヴル)」ってどういう意味ですか？ という質問をいただきました。「リーヴル」とは、フランス語で本・書籍という意味です。みなさんが少しでも本を身近に考えてくださればと願い、発行しています。大学サービスの一つである図書館をぜひ活用してください。

編集・発行：東京女子体育大学・短期大学 図書館委員会
東京都国立市富士見台4-30-1 TEL.042-572-4131

LiVRE

リーヴル

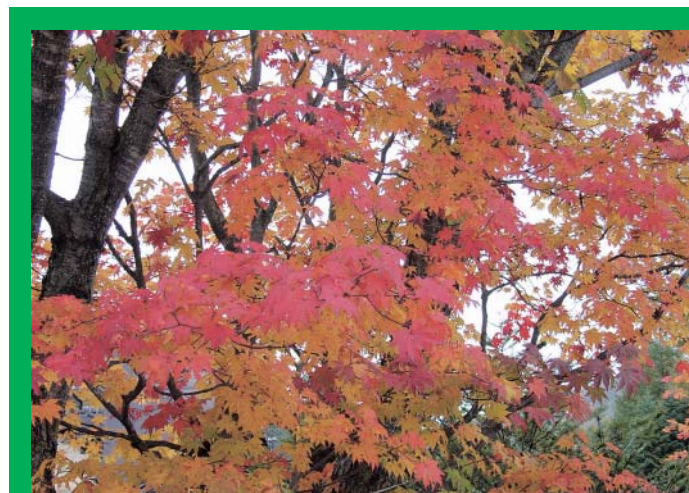
学校法人藤村学園 東京女子体育大学・短期大学付属図書館報
2005.11 No.2

私と小鳥と鈴と 金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。



写真・森直幹

話題の映画・テレビを読む



◎蝉しぐれ (藤沢周平、文藝春秋、1998年)

映画「蝉しぐれ」が東宝系の映画館で上映されています。原作は藤沢周平氏のベストセラー小説で、テレビでも何回かドラマ化されていますし、中学校の国語の教科書にも載っています。

物語は江戸時代、東北の小藩に生まれた牧文四郎が主人公です。彼は幸せな少年時代を過ごしますが、父が藩のお家騒動に巻き込まれ、反逆罪で切腹させられるという不幸に見舞われます。十五歳の文四郎も逆賊の子として様々な試練と出会いますが、そんな時、文四郎の側には、温

かく見つめる幼なじみの「ふく」 『蝉しぐれ』に見る愛のかたちがあります。しかし二人は相手への淡い思いを心の奥にしまいこんだまま、別々の道を歩んでいきます。やがて文四郎の運命は二転三転し、そして運命のいたすらともいふべき「ふく」との再会…。武士の世界を描いた男のドラマですが、ヒロイン「ふく」の生き方がいいですね。人間としての気高さを感じます。生涯かけて人を愛する女性の強さがあります。



忘れようと、忘れ果てようとしても、忘れられるものではございません。

(国語・田中洋一)

スポーツ倫理を考えよう

アテネ五輪のハンマー投げでは、ハンガリーのアマシュ選手が優勝しました。しかし、数日後、ドーピング違反のため金メダルを剥奪されました。また、今夏の甲子園大会では、駒大苫小牧高校が2連覇という快挙を成し遂げましたが、野球部長による部員への体罰事件が発覚し、優勝旗の返還問題にまで発展しました。



◎スポーツ倫理を問う (友添秀則、大修館書店、2000年)

これらについて皆さんはどう思いますか？ドーピングや指導者による体罰、試合中の暴力など、様々な問題が今のスポーツ界には噴出しています。この本は、現代スポーツが投げかける様々な難問を解くための指針を、倫理的な立場から提供しています。この本を読んで、ぜひ「スポーツ倫理」について考えてみてください。

(教育課程・吉永武史)

世界的なクライマーである山野井泰史氏が、自分自身の言葉で書き下ろした、ここ10数年間のヒマラヤ登山の記録です。

わずかなミスが、死に直結する高所でのクライミング。その生と死のギリギリの狭間で、人間の持つ能力を最大限に発揮し挑戦し続ける著者。

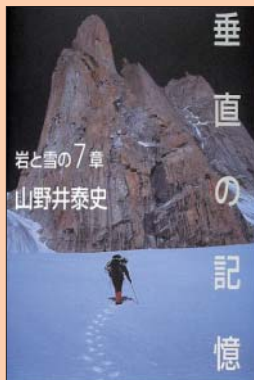
全てをクライミングに捧げているといってもいい、氏自身の登攀への熱い想いとその記録は、純粋に一つのことに打ち込み続けることの素晴らしさを感じさせます。

中でも、結果として多くの手足の指を失うことになった、ギャチュン・カンからの「生

あくなき挑戦の記録

山に興味のある人はもちろん、そうでない人にとっても、人間ドラマとして読み応えがあると思います。(体育原理・早瀬健介)

◎垂直の記憶―岩と雪の7章 (山野井泰史、山と溪谷社、2004年)



「ヤンキー母校に帰る」というドラマを知っていますか？手のつけられなかった「ヤンキー」が、教師として母校に戻り、生徒たちと様々な問題にぶつかりながら、共に成長していく姿を描いたドラマです。

ところが、原作であるこの本は…、かなり重いです。父子家庭で育つ著者が、なぜ「不良」となったのか。周囲に見放された時の事件や、面倒を見てくれた里親との生活でつけた自分、再出発をかけた高校での出来事など、

夢を持って。夢を信じる。夢は決して逃げてはいかない。

事実を隠すことなく、過去を冷静に見つめ、客観的な視点で書かれています。

教師として壇上に立ち続けた日々は、事件の連続で驚く内容ばかりです。その中で、毎日を生徒と向き合う教師たちの姿には胸が熱くなる想いがします。教師を目指す多くの人に、読んで何かを感じてもらいたい本です。

(学部3年・藤本和代)



◎不良少年の夢 (義家弘介、光文社、2003年)

We Love Books! 宣言

扉のむこうに無限の知
時の流れをページにはさもう
知らない自分がそこにあるはず



◎運命の足音 (五木寛之、幻冬社、2002年)

◎運命の足音 筆者の人生に重い影を落としてきたものがよく理解できた。戦争の悲劇を実体験した筆者の苦悶を知り、読者の心も重く苦しいものになる。人生観、宗教観、文学観、歴史観などすべてを含め集大成した書物であり、トルストイの小説の冒頭部分も、私には懐かしい思いを感じることができた。(算数・鈴木政之)

◎イギリス人はおかしい 英国ベタ誉めの本が多い中、イギリス人の赤裸々な姿を辛口とユーモアで綴った英国暮らし体験記。このシリーズは他に『イギリス人はかなしい』『イギリス人はしたたか』『わたしのイギリス あなたのニッポン』『イギリス・ニッポン 言わせてもらいまっせ』『ロンドンの負けない日々』などがある。読後感がすかつとす。(音楽・八木宏子)



◎イギリス人はおかしい (高尾慶子、文藝春秋、2001年)



◎ダ・ヴィンチ・コード (ダン・ブラウン、越前敏弥訳、角川書店、2004年)

「ミロ」夜のルーブル美術館で殺人事件が起きた。連日、世界中の観光客が集まる美術館は、深夜は全く違った表情を見せ、読者をサスペンスの世界に引き込んでいく。1975年、カトリック教会の秘密結社シオン修道会の秘密文書が発見され、あの天才、レオナルド・ダ・ヴィンチも会員であったという事実に基づいてこの小説は書かれた。

ダ・ヴィンチの絵の新たな解釈や宗教絵画の象徴学、図像学、さらにはルーブル美術館のセキュリティシステムなどとても興味深い。小説であるが芸術作品、建築物、文書、秘密儀式に関する記述はすべて事実に基づいていることも凄い。(美術・宿輪忍生)

